地域リハビリテーションを考える

大阪府身体障害者更生相談所
所　長　　澤田　啓祐

3.地域リハビリテーションのキーパーソン

地域リハビリテーションを進めるには、まず地域の拠点、次いでキーパーソンの有無が重要です。

地域リハビリテーションを先駆的に進めている都市や町では、そこに必ずこれを牽引する中心となる人物のあるのを見ます。このように事業、活動の進展には地域の資源を束ね、連携の中心となり、命令の拠点となる人が必要です。この人物は地域の事情に通じ、関係者から依頼され、物事を積極的に進めていく資質があることが条件になります。もし、地域に社会福祉士の資格のある人があれば最適でしょう。しかし、社会福祉士でなくても、医師、保健婦、療法士、ケースワーカーや他の職種であっても適任者があれば、特に職種にこだわることはないでしょう。

4．地域でのリハビリテーションを進める

地域での拠点ができ、キーパーソンが決まれば、地域リハビリテーションを具体的に進める職員の確保です。これは常勤の専門分野の人々で満たされれば最適ですが、現実はそうとは参りません。地域にある他の機関の職員の援助や連携も考えます。

次に、地域にある保健、福祉、医療、教育、労働等の機関や行政、ボランティア、各種のクラブ等と、この活動に対する理解の統一と連携を行うことです。「情報交換とネットワーク」です。この連携で大切なのは他機関や様々な人々と知り合うこと、常にお互いに知識の交換、情報の交換ができる間柄になっておくことです。

写真1

具体的に地域リハビリテーションを進めるためには

①地域内における問題意識の形成

地域における啓発事業を通じて市民の間に問題意識を持つことで、特にこの活動を進めるメンバーは、障害者の地域生活での問題点について勉強し、問題意識を正しく持ち、市民の間のこの意識を敏感に感じてなければなりません。ことに障害を持っている人々の問題意識について整理しておかなければなりません。

②この問題意識についての調査

地域におけるソフト面、ハード面の調査を行います。例えば、車いす利用の障害者が市場に買い物に外出する際の道路、交通機関、市場設備などの環境の物理的障害は何か。

③調査結果の集約と分析

④問題点の確認と解決への考察

⑤可能な対策（短期目標と長期目標）

対策には単に市民のボランティア活動で解消されるものから、行政的に長期の対策となるものもあるでしょう。これを十分に整理して活動に移します。

⑥活動の分担

地域社会を広範囲に、また障害者の生活全部を含むこの活動は、それぞれの活動の課題の分担を行います。そしてそれぞれの分野に応じて活動を進めます。この分野の活動には必須なのは他の分野との情報交換と連携です。

⑦実践

⑧結果への評価、反省

評価と反省は、障害者のＩ．Ｌ．とＱ．Ｏ．Ｌ．を、ニーズを基本においていなければなりません。これを離れれば、また活動かる側の満足を中心にすれば、これは失敗に帰することを肝に命じておかなければなりません。

写真2

おわりに

地域リハビリテーションは、家庭や地域の中で障害者が身体機能回復の機能訓練を行ったり、地域社会に参加しようと適応努力することを主眼にするのではなくて、障害を持った人々が家庭で、住み慣れた地域社会で、楽しく、生き生きと生活できる社会環境を作り出すことが主体であるということを肝に命じておかなければなりません。この環境作りに特に大切なのが

・市民が障害者を受け入れ、共に生き、同じ社会の構成員であり、幸せを共有する市民であるという、理解する心
・障害者のニーズを第一に
・市民参加と行政施策推進で、市民全てが住みよい街作りです。

地域リハビリテーションを進めるにあたっては

①リハビリテーション、ノーマライゼーションの理念の十分な理解
②それぞれの地域の事情、条件にあった推進技術、方法作りと、実践
③地域での関係機関の連携

を大切にしたいものです。

写真4

写真3

写真5

写真6